
■認知症患者の介護家族
「生活障害」に強いストレス

アルツハイマー型認知症の患者を介護する家族の9割は、食事や排せつ、入浴など日常の基本動作ができなくなる「生活障害」に介護ストレスを感じていることが、製薬企業ノバルティスファーマの

調査で分かった。

今年3月、軽度から中等度の患者を在宅介護している30代以上の男女計300人にインターネットを通じて質問した。

生活障害に介護ストレスを「強く感じる」と答えた人は42%、「やや感じる」48%、「あまり感じない」9%、「全く感じない」は1%だった。

最もストレスが強い生活障害を尋ねると「単純な会話や指示が理解できない」が32%で最多。次いで「正しく薬を飲めない」17%、「ベッドやトイレの場所が分からない」12%の順だった。